

Announcements

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00053483

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



会 記

2011 年度会計報告 (2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

○植物地理・分類学会

収入 (A)	1,779,380円	支出	2,274,230円
会費	1,538,592	雑誌印刷費	1,630,270
バックナンバー売上	21,000	(58-2, 59-1)	
別刷・超過ページ組賃・カラー図版	195,500	雑誌送料 (58-2, 59-1)	136,840
利息	168	通信費	76,440
雑収入	2,520	英文校閲費	50,000
総会参加費等	17,600	会計事務	4,400
		庶務事務費	149,881 (内訳)
		発送作業アルバイト	28,500
		文具等	53,906
		封筒印刷費	39,900
		雑誌封入発送代行	24,000
		雑支出	3,575
		ニュースレター送料	81,760
		会議旅費	58,000
		自然史学会連合負担金	20,000
		総会関係	66,639 (内訳)
		運営費	3,739
		会場費	25,400
		懇親会補助	25,500
		会場アルバイト	12,000

差引 (A - B) 2,631,360 円 (次年度への繰越金)

○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	449,467円	支出 (B)	130,630円
贈金 (1 件)	10,000	授賞金	100,000
前年度繰越金	439,467	受賞者旅費	30,000
		大会用消耗品	630

差引 (A - B) 318,837 円 (次年度への繰越金)

新入会員 (2012 年 4 月～2012 年 12 月)

3 月 23 日	伊藤 彩乃	〒 274-0065	千葉県船橋市高根台 6-18-19
4 月 9 日	荒瀬 輝夫	〒 399-4598	長野県上伊那郡南箕輪村 8304 信州大学農学部 附属アルプス圏 フィールド科学教育研究センター
4 月 18 日	志賀 隆	〒 950-2181	新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地 新潟大学教育学部
4 月 23 日	河上 友宏	〒 270-2218	千葉県松戸市五香西 3-35-8
5 月 14 日	伊藤 玄	〒 507-0037	岐阜県多治見市音羽町 1-10-3 音羽苑 1104 mariko5/14
7 月 27 日	黒川 康嘉	〒 761-0104	香川県高松市高松町 1937-4
9 月 15 日	柄澤英理子	〒 948-0133	新潟県十日町市沖立 2127
11 月 8 日	深町 篤子	〒 183-8509	東京都府中市幸町 3-5-8 東京農工大学植生管理学研究室
12 月 25 日	望月 寛子	〒 321-0921	栃木県宇都宮市瑞穂 2-13-1 瑞穂野団地 16 号棟 33 号室

退会会員 (2012 年 4 月～2012 年 12 月)

畑中幸次郎 〒 861-8028 熊本市東区新南部 3 丁目 5-47 光産ハイッ A202 号
宮一諭起範 〒 929-0326 石川県河北郡津幡町井上の荘 3 丁目 102

住所・氏名変更及び訂正 (2012 年 4 月～2012 年 12 月)

大野 啓一 〒 240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区横浜市常盤台 79-7 横浜国立大学大学院環境情報研究
院 → 〒 115-0041 東京都北区岩淵町 38-22
加藤ゆき恵 〒 060-0003 北海道札幌市中央区北 3 条西 8 丁目 北海道大学植物園 → 〒 085-0822 北
海道釧路市春湖台 1-7 釧路市立博物館
黒崎 史平 〒 658-0065 神戸市東灘区御影山手町 1-18 頌栄短期大学 → 〒 651-0052 神戸市中央区
中島通 1-1-25-102
小山 泰弘 〒 399-0711 長野県塩尻市片丘 5739 長野県林業総合センター → 〒 399-0728 長野県塩
尻市峰原 185-89
島田 和則 〒 305-8687 つくば市松の里 1 森林総合研究所気象環境研究領域 → 〒 193-0843 東京
都八王子市廿里町 1833-81 森林総合研究所多摩森林科学園
江口 誠一 〒 260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2 千葉県立中央博物館 → 〒 156-8550 東京都世
田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部地理学科
榎本 博之 〒 918-8051 福井市桃園 1 丁目 1-13-A306 → 〒 910-0026 福井市光陽 1 丁目 25-31
村長 昭義 〒 522-0008 彦根市安清東町 16 → 〒 523-0884 近江八幡市北末町 25
一野 香織 〒 874-0828 大分県別府市山の手町 8-44-101 → 〒 849-0111 佐賀県三養基郡みやき町
白壁 4361-1
須山 知香 〒 920-1192 金沢市角間町 金沢大学理学部生物学科植物自然史講座 → 〒 501-1193 岐
阜市柳戸 1-1 岐阜大学教育学部理科生物
藤本 誠 〒 398-0001 長野県大町市平 23010 → 〒 398-0002 長野県大町市大町 7032-12
松井 洋 〒 064-0807 札幌市中央区南 7 条西 9 丁目 1030-4-405 → 〒 064-0807 札幌市中央区南
7 条西 9 丁目 1030-4-401

(会計幹事 中野真理子)

植物地理・分類学会 2013 年度大会のお知らせ

植物地理・分類学会 2013 年度大会は 6 月 1 日, 2 日に福島大学の黒沢高秀氏にお世話になり福島県におい
て開催します。現在, 次のように計画中ですが, 決定いたしましたら, 大会の詳細および参加申し込み等のご
案内を学会ニュースでお知らせいたします。

1. 会場 (予定)

ふくしま県民の森フォレストパークあだたら
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 68

2. 日程

6 月 1 日 (土) 午後: 総会, 学会賞授賞式, 受賞記念講演会, 一般講演, 懇親会

6 月 2 日 (日) エクスカーション

ふくしま県民の森フォレストパークあだたら等を検討中です。

植物地理・分類学会 2012 年度大会

植物地理・分類学会 2012 年度大会は 6 月 1 日（金）～ 3 日（日）に福井県丹生郡越前町において開催された。学会 60 周年（1952 年の金沢植物同好会発足から）記念大会として、公開講演会を企画し、3 日間の日程で行った。

まず、1 日午後 6 時より、越前町生涯学習センター多目的ホールにおいて、学会 60 周年記念公開講演会を開催した。綿野泰行会長の挨拶に続き、関敬信町長より歓迎の挨拶をいただいた。講演は、まず、岩槻邦男氏（兵庫県立人と自然の博物館館長）より、「植物とつきあう—生涯学習と学会・植物園」と題して、生涯学習という考え方の始まりから、そこでの自然、植物の関わりを丁寧に解説いただき、今後の関連の学会、植物園の役割を考えさせられるものとなった。次に、門田裕一氏（国立科学博物館植物研究部研究主幹）から、「福井県の興味深い植物たち」と題して、地域の研究者の協力を受けて丹念に植物の実態を調べてきた成果を、若狭湾要素とアザミ属をキーワードに紹介いただき、植物地理、分類学の面白さを改めて感じさせられた。両講演とも本学会 60 周年を記念するのに相応しい内容であり、来場いただいた多くの方々にも満足いただけたものとする。

2 日は、午前 9 時より、福井総合植物園の見学会を行った。同園の早坂英介氏の案内で、この地域の日本海要素を含む特徴的な植物を、開花期の種を中心として観察していただいた。天気にも恵まれて、良く整備された園内をゆったりと巡回し、興味を持たれた植物を写真撮影されている姿が多く見られた。

午後 1 時から越前町生涯学習センターにおいて総会を行った。綿野会長から挨拶があった後、議長に永益英敏氏を選出し、議事に入った。まず、2011 年度活動報告として、庶務幹事から以下の事項について報告があった。

- ・会員状況（2011 年度末）：個人 556 名（うち学生 25 名、特別 12 名）、21 団体

- * 2010 年度末：個人 566 名（うち学生 34 名）、22 団体

- ・大会開催：2011 年 6 月 4 日、京都大学楽友会館（京都市）

- ・エクスカージョン実施：2010 年 6 月 5 日、鞍馬山（京都市）

- ・学会賞表彰：2011 年度学会賞授与（学会賞：黒崎史平氏、奨励賞：佐藤杏子氏）

2012 年度学会賞選考（応募締切 2011 年 10 月 31 日）

選考委員会（木下、御影、永益、寺田、毛利）

- ・会誌発行：植物地理・分類研究 vol.58.no.2, vol.59.no.1

- ・総会開催：2011 年 6 月 4 日、京都大学楽友会館（京都市）

- ・評議員会開催：同上

- ・幹事会開催：2011 年 4 月 2 日（石川県立自然史資料館）、6 月 4 日（京都大学）

- * 学会運営に関わる協議はメールにより随時実施

- ・その他：日本学術会議協力学術研究団体登録

続いて、会計幹事から 2011 年度会計報告（本誌別ページ掲載）が、監査員の本多郁夫氏と高木政喜氏より監査済みの配布資料に基づいて行われた。参加者の拍手により活動報告と会計報告は承認された。次に、2012 年度の活動計画が庶務幹事から、予算案が会計幹事から提案され、拍手により賛成多数で承認された。最後に、会長より 2013 年度の大会開催地について、福島大学の黒沢高秀氏にお世話をお願いして、福島で開催したいとの提案があり、拍手で承認された。そして、黒沢氏より歓迎の挨拶をいただいた後、総会を閉会した。

午後 2 時から、2012 年度の学会賞授賞式が行われ、加藤雅啓前会長より、学会賞は岩坪美兼氏に決定したことが、氏の業績を紹介し報告された（本誌別ページ掲載）。続いて、会長より賞状と副賞の贈呈があり、その後、受賞記念講演を拝聴した。演題は「染色体からみた植物の多様性」で、染色体観察の意義と方法、そしてイタドリやオオバコの種内倍数性など染色体の多様性を、わかりやすい実例を図を示しながら、ユーモアを交えた楽しい語りで解説いただけた。講演後には、活発な質疑応答もあり、植物地理・分類研究における染色体調査の意義を確認する機会ともなった。

続いて、午後 3 時 30 分から一般講演が行われた。演者と演題は以下の通りである。

1. 織田二郎（京都大学総合博物館）・渡辺定路（福井市松本）・内貴章 岩坪美兼氏による学会賞授賞記念講演



- 世 (岡山大学教育学部)・永益英敏 (京都大学総合博物館) : スゲ属の推定種間雑種フクイオシマスゲ」
2. 志内利明 (富山県中央植物園)・藤田卓 (日本自然保護協会) : トカラ列島のヤシバシ類について
 3. タッサナイ・ジャルワッタナパン (千葉大学大学院理学研究科)・松本定 (国立科学博物館)・綿野泰行 (千葉大学大学院理学研究科) : オオパノイノモトソウ種群における網目状進化
 4. 瀬戸口浩彰・大槻達郎・野田明日香・正田佑 (京都大学大学院人間環境学研究科)・金子有子 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) : 琵琶湖に陸封された海浜植物の系統地理と保護施策
 5. 小澤有司 (株式会社ブレック研究所) 東京都御岳山におけるヤマグルマの生育要因
 6. 伊藤彩乃・河上友宏・百原 新・三島孔明 (千葉大学大学院園芸学研究科) : 関東地方のサイカチの生育環境と更新に関する考察
 7. 佐藤 卓 (富山県立新川みどり野高校)・太田道人 (富山市科学博物館) : メッシュ気候値を用いた日本海要素の分布解析

一般講演終了後、福井総合植物園にバスで移動して、午後 6 時から懇親会が開催された。広いガラス窓からライトアップされた植物園の木々が眺められるホールを用意いただき、関町長から改めて 60 周年のお祝いの言葉もいただき、鳴橋元会長より学会創成期からの思い出も語っていただき、学会の今後の益々の発展を祈念する会となった。並んだ福井の山海の幸と美味しい飲み物の助けも借り、楽しい会話が各所ではずみ、予定の 2 時間が短く感じた懇親会は、来年の福島での盛会を期して閉会した。

(庶務幹事 五百川 裕)

エクスカーション：福井県越前町越知山とハツ俣町海岸

2012 年 6 月 3 日のエクスカーションは、福井県越前町の越知山とハツ俣町の海岸で行われた。雨の予報にも拘わらず、朝から晴れ間が見えて良い天気となった。午前中は越知山に登り、バスで日本海側に移動して、午後は海岸を歩いた。千葉県出身の私は、日本海側に来るのは初めてで、どんな植物を見ることができるのかわくわくしながら越知山へ着いた。

越知山では早速、関東地方では見られない植物が続々登場した。先生方に名前を覚えてもらいながら、ゆっくりと山を登っていく。ピンク色の花を枝先にたくさんつけているのはタニウツギ (スイカズラ科)。日本海側の山地の日当たりのよいところで見られる日本固有の植物だ。のっぺりとした肉厚の葉の付け根に小さな白い花を咲かせているのはヒメモチ (モチノキ科)。日本海側の多雪地の山地で見られる日本固有の植物だ。枝先に三つの葉が輪生するのはユキグニミツバツツジ (ツツジ科)。ミツバツツジの仲間は地域ごと分化していて、千葉県の房総丘陵には、ミツバツツジとキヨスミミツバツツジが分布する。ここ福井県に分布するのはユキグニミツバツツジで、葉柄に毛がないのも特徴だと教えてもらった。林床には大きな葉が 6 枚ほど輪生したクルマバハゲマ (キク科) や、丸くて光沢のある葉が密生したオオイワカガミ (イワウメ科) が生えていた。



参加者の集合写真

コアジサイ（アジサイ科）の群落やミヤマナルコユリ（ユリ科）、ハクウンボク（エゴノキ科）などを見ながら、さらに登っていくと池があった。果実をたくさんつけた立派なソメイヨシノ（バラ科）が池の縁に生えていた。先生方の話によると、ソメイヨシノは挿し木によるクローンなので、自家不和合により種子はふつつ見られないが、ヤマザクラなどの野生のサクラと交雑すると種子ができるそうだ。近くにクルマムグラ（アカネ科）の小さな白い花が星のように咲いていた。ブナ（ブナ科）も所々に生えていて、崩壊地や道端などの開けた場所ではブナの実生がたくさん出ている。本葉の形とは全く違うハート形の双葉がとてもかわいい。関東地方の筑波山や高尾山の山頂で見られるブナ林は実生がほとんどないので、その違いに驚いた。



海岸での植物観察

さらに登ると越知神社があった。ここで、エチゼンカンアオイ（ウマノスズクサ科）という不思議な植物に出会った。カンアオイの仲間は、関東地方にもあり、カントウカンアオイやタマノカンアオイなどを見たことがある。いつも落ち葉をかき分けて、中に埋まった花を見つけて楽しんでいるので、今回も早速かき分けてみた。すると、エチゼンカンアオイの花も土のなかに埋まるように咲いていた。ここで先生方の議論が始まった。エチゼンカンアオイは秋に花が咲くといわれているそうだ。しかし今咲いているということは、春にも咲くということになる。花は触ると柔らかくて、咲いてからあまり時間が経っていないと考えられた。1年に2度花をつけるのか、それとも秋に咲く個体と春に咲く個体があるのか。そんな疑問が次々と生まれていく。観察していると、いろいろな不思議が生まれる。そこから新しい発見が生まれるのだろう。なんだかとってもわくわくした。

越知山の山頂、標高610m付近まで行くと、ブナばかりが目につくようになった。ブナの原生林の林床には、ユキバツバキ（ツバキ科）が生えている。ユキバツバキは、多雪地に適応したほふく性のユキツバキと、関東地方でもふつうに見られるヤブツバキとの中間型で、ユキツバキとヤブツバキの分布が接する場所で見られる。ブナクラス域とヤブツバキクラス域の境界に位置する福井県だからこそ見ることができたのだ。ムラサキマユミ（ニシキギ科）という珍しい植物もあった。日本海側の雪の多い地方に生えるオオバスノキ（ツツジ科）と、アクシバ（ツツジ科）の葉の違いを教えてもらいながら、山を下る。途中で、巨大な葉をつけたミヤマカタバミ（カタバミ科）を発見。大きなロケットのような実を触ると、パチパチとはじけて種子が出てきて楽しかった。他にもショウジョウバカマ（ユリ科）やサラシナショウマ（キンポウゲ科）などを見ることができ、日本海側のブナ林を満喫した。駐車場脇でおにぎりを食べた後、今度は海岸へ向かった。

海岸に着くと、トベラ（トベラ科）の花が満開だった。外側に巻いた葉の中心にまとまって白い花がたくさん咲いている。終わりがけの花は黄色に変化していて、白から黄へのグラデーションがきれいだ。マサキ（ニシキギ科）も小さなつぼみをたくさんつけて、いまにも咲きそうだった。その上にはマルバグミ（グミ科）がからみつき、大きなハマウド（セリ科）も生えていた。岩場では、マツのような細い葉が輪生したカワラマツバ（アカネ科）や、細い葉がふわふわと広がったアスパラガスの仲間のキジカクシ（ユリ科）も見られた。また、肉厚でツメクサに似た葉をつけたハマツメクサ（ナデシコ科）が小さな5弁の白い花をつけていた。岩の陰には、肉厚の緑の葉と赤い茎の対比が美しいハマボス（サクラソウ科）が茎の先端に白い花を咲かせ、岩の間のあちこちにコオニユリ（ユリ科）の伸び出した茎も顔をのぞかせていた。コウボウシバ（イネ科）の群落を通り過ぎると、セイヨウミヤコグサ（マメ科）の黄色い蝶形花とベニバナチチコグサ（キク科）の白い綿毛が一面に広がる草地があり、海岸には外来種が入り込みやすいことを実感した。

草地を抜けると砂浜に出た。砂浜では、甘い香りの白い花をつけたスナビキソウ（ムラサキ科）の大群落があった。スナビキソウは砂の中に地下茎を長くのばして殖えることからその名前がついたという。先生方が楽しそうにスナビキソウの根を深くまで掘っていた。私も真似をして太陽の熱で温まった砂を少し掘ると、湿った砂が出てきて、そこにスナビキソウが根を張っていた。小さな個体は発芽したばかりでまだ根が短かったが、大きな個体は掘ると隣の個体とつながっていることが分かって興味深かった。他にもハマエンドウ（マメ科）の紫の花や、ハマヒルガオ（ヒルガオ科）のピンクの花、ハマダイコン（アブラナ科）の薄紫の花、メノマンネングサ（ベンケイソウ科）の黄色い花が満開できれいであった。

帰りのバスの中で青い日本海を見ながら、日本海側の植物をたくさん見ることで嬉しさが胸がいっぱいになった。

（千葉大学大学院 伊藤彩乃）



山頂付近のブナ林



スナビキソウ群落の観察



エチゼンカンアオイの花



エチゼンカンアオイ



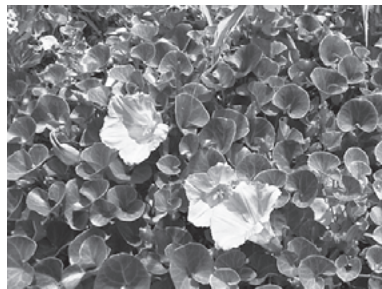
スナビキソウの根



スナビキソウ



ハマエンドウ



ハマヒルガオ

2012 年度植物地理・分類学会賞受賞者の選考について

2012 年度植物地理・分類学会の受賞者は、学会賞選考委員会による厳正な選考の結果、下記のように決定いたしました。

植物地理・分類学会賞

受賞者 岩坪美兼

推薦者 加藤雅啓

岩坪美兼氏は、現在、富山大学理学部生物学科教授を務めておられ、植物細胞分類学研究の第一人者である。バラ科の他、キンポウゲ科、セリ科、タデ科、シソ科、キク科、スベリヒユ科、ナデシコ科、ヒユ科、モクセイ科、カタバミ科など多様な分類群の染色体数・倍数性・核型を、他に追従を許さない精巧な観察法によって明らかにし、それとともに新分類群も発表している。これにより、これら植物の細胞分類学的特性を解明し、植物地理・分類学の分野で卓越した業績を上げられた。

また、本学会誌「植物地理・分類研究」の発行において、1998 年から 2004 年まで主任編集委員、続く 2005 年から 2009 年までは編集委員長として、計 12 年間にわたって編集に尽力された。さらに、積極的に自身の論文を本学会誌に投稿し、高い質を維持するためにも貢献された。「植物地理・分類研究」が当該分野における日本の代表的な学術誌としての評価が確立したのは、岩坪氏の継続的・献身的な熱意と努力があったからこそといえる。

以上のように、岩坪美兼氏の業績は、植物地理学および植物分類学の分野において学術的見地からまことに顕著であると共に、本学会の発展に大きく貢献されており、植物地理・分類学会賞を授賞するのにふさわしいと評価した。

2012 年 3 月 1 日

植物地理・分類学会賞選考委員会

2014 年度植物地理・分類学会賞応募要領

植物地理・分類学会は、植物地理学と植物分類学の振興と育成のため、植物地理・分類学会賞および植物地理・分類学会奨励賞の 2 つの学会賞を設け、以下のように公募する。

植物地理・分類学会賞

応募資格

受賞の年度までに 5 年以上、植物地理・分類学会員であること。

受賞の対象となる業績内容の例：

- ・地域植物相の解明に貢献
- ・モノグラフの研究に貢献
- ・分類群の系統解明に貢献
- ・地域の植物研究グループの中心としての教育的な貢献

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1 部、あるいはこれまでの研究歴についてかかれた書類 1 部（学校、研究所、博物館等に所属していない人に限る）
- (2) 業績リスト 1 部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ 3 部、著書があれば 1 部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を紹介できる人（1 名）の連絡先を記した書類

応募期限

2013 年 10 月 31 日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒 953-8512 上越市山屋敷町 1 番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

植物地理・分類学会奨励賞

応募資格

- ・優れた萌芽的研究を行い、今後の発展が期待できる植物地理・分類学会員
- ・ファーストオーサーとして植物地理・分類研究に論文を発表している者
- ・応募時に満 35 歳未満の者

応募方法

自薦または他薦による候補者の推薦

提出書類

- (1) 履歴書（研究歴を明瞭に記載したもの）1 部
- (2) 業績リスト 1 部
- (3) 主要論文の別刷りをそれぞれ 3 部、著書があれば 1 部
- (4) 推薦理由書
- (5) 業績内容を紹介できる人（1 名）の連絡先を記した書類

応募期限

2013 年 10 月 31 日

応募先（必ず書留便で郵送してください）

〒 953-8512 上越市山屋敷町 1 番地 上越教育大学学校教育学系内
植物地理・分類学会 庶務幹事 五百川 裕

投稿規定

(2011 年 3 月部分改定)

編集方針

「植物地理・分類研究」は、植物地理・分類学会機関誌として年 1 巻 (2 号) 刊行される。本会誌は、総説、論文、短報、ノート (新産地情報、観察記録等の雑録) のほか、新刊紹介、追悼文、その他編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。本文は日本語または英語を使用。

投稿資格

「植物地理・分類研究」に投稿する者は、原則として本会会員 (共著の場合は 1 名以上の本会会員を含む) に限る。

原稿の受付

原稿は、投稿規定に従って書かれたものに限り受付ける。

原稿の審査及び採否

投稿された原稿は、原則として 2 名の審査員が審査し、その意見のもとに、編集委員会が採否を決定する。

論文等の受理

原稿が編集委員会に届いた日をもって受付日 (received)、編集委員会が掲載を可とし、編集委員長がそれを認めた日をもって受理日 (accepted) とする。なお、掲載順は編集委員会によって決定する。

著作権

本誌掲載の論文、短報、ノート、その他の著作権は、植物地理・分類学会に帰属する。著者は、著作権を委譲する旨の書類を、最終原稿送付時に本学会に提出する。

論文等の長さ

本論文は、刷り上がりで、図表を含み 8 頁までとする。短報とノート (雑録) は 4 頁までとする。ただし超過頁の組版代 (1 頁につき 6,000 円) を著者で負担する場合には制限しない。

原稿の送付

a 紙原稿の場合：本稿 1 部のほか、コピー 2 部、合計 3 部を提出する。その際、表・図は 3 部ともに鮮明なコピーを送ること (写真については、原図を写真に撮ったものか、または審査に使用し得る程度の鮮明な写真コピーとする) 表・図の原図は、掲載決定後の最終原稿とともに送付する。

b 電子投稿の場合：本文、表、図とも原則として PDF ファイルとし、電子メールに添付して下記編集委員会あて送付する。本文と図の説明には、頁番号および連続行番号をつけること。添付ファイルのサイズは 5MB 以下とし、超過する場合は分割して送付する。

原稿の書き方

本論文は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意)、③ Abstract (英文で 250 語以内)、④英語のキーワード (表題にない 5 個以内の語句でアルファベット順)、⑤本文、⑥引用文献の順序で構成するものとする。短報は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意)、③本文、④引用文献の順序で構成するものとする。本論文・短報は、英文の場合、さらに和文の摘要を付けること。短報が和文の場合、英文の Summary を付けることも可。ノート (雑録) は、英和両文で著者名と題名を付け、所属、住所、および連絡先メールアドレス (任意) を末尾に付ける。ノートが英文の場合、和文の摘要を付けることも可。本論文・短報・ノートとも、場合により Appendix を付けることも可。著者が複数である場合、責任著者 (corresponding author) の氏名と連絡先をアスタリスク (*) で明示する。本文中で使用する単位は、国際単位系 (SI) に限る。

原稿の用紙

英文原稿は、A 4 判用紙に上下 3cm 程度、左右 2.5cm 程度あけ、ダブルスペースで 25 行を原稿の 1 頁とする。和文原稿の場合は、原則として日本語ワードプロセッサを使用し、A 4 判の用紙に周囲それぞれ 3cm 程度の余白を取ったうえで、30 字×30 行程度を原稿の 1 頁として作成する。手書きの場合には、A 4 判 400 字詰め原稿用紙を用いること。

図と写真

図および写真は、そのまま印刷できるようにレイアウトして、堅い A 4 判の台紙にはりつけること。裏面には著者名と図番号、天地、縮小率を明記すること。写真は原寸大、図は 67% 縮小程度が望ましい。A 4 判に納めることが不可能な植生表のような場合には、A 4 に分割したコピーを添えること。図にはスケールを

表示し、図の記号、数字には文字を貼り込むこと。図は原則として刷り上がりで15cm(頁幅)×19cm以内または7cm(半頁幅)×19cm以内(いずれも幅×高さ)であること。

和文原稿の図表および写真の説明は、英文、和文、英文和文併記のいずれでもよい。図の説明文は、図中には入れ込まず、独立した原稿として用意すること。なお、図表は希望の挿入位置を原稿中に指示すること(著者による図表などの縮小率や位置の指定は、編集委員会において若干変更する場合があります)。当面、カラー写真は、1点(組写真でも可)に限り組版料無料。2点目からは実費負担(1点につき40,000円)。特殊な図表は、実費を著者で負担する場合に限り掲載する。

学名および標本庫の表示

学名は、現行の国際植物命名規約(ICBN)に従い、属名および種と種以下の分類群の形容語のみをイタリックで表示する。本文中では学名以外はイタリックを使用しない。学名は初出時に命名者名を付ける。命名者名は、省略形を使用する場合、Brummit, R. K. and Powell, C. E. (eds). 1992. Authors of Plant Names. 732 pp. Royal Botanic Gardens, Kew または The International Plant Names Index のホームページ (<http://www.ipni.org/>) に従う。栽培植物の学名は、最新版の国際栽培植物命名規約(ICNCP)に従う。標本庫の略語は Holmgren, P. K., Holmgren, N. H. and Barnett, C. B. (eds). 1990. Index Herbariorum 8 ed. 693 pp. New York Botanical Garden, New York または Index Herbariorum のホームページ (<http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp>) に従う。

文献の引用

引用文献は、ウェブサイトを含め本文中に引用したすべてを記さなければならない。文献の配列順序はアルファベット順とし、一件ごとに改行する。すなわち、第1著者の異なるものはアルファベット順とし、姓が同じ場合は名のアルファベット順とする。第1著者が同一の場合には、単独のものを最初とし、そのあとは、第2著者の氏名のアルファベット順とする。第2著者も同一の場合は、第3著者以下について上記に準じる。著者が同一のものについては、発表の年代順とする。同一著者、同一年代のものは、年号のあとに小文字のアルファベットを付して、1999a, 1999b のように区別する。著者が3名以上で第1著者が同じである場合は、他の著者が異なっているときでも年号のあとにアルファベットを付して区別する。なお本文中での引用は、石川(1999)もしくは(Toyama 1999)のように著者名と発表年を用いる。なお著者が2名の場合、石川・富山(1999)、(Ishikawa and Toyama 1999)、3名以上の場合、石川他(1999)、(Toyama et al. 1999)の形式を用いること。

a 雑誌の場合: 著者名(姓前名後とし、すべての著者名をあげる)、年号、論文表題、雑誌名、巻数(太字): 頁とし、通し頁でない場合のみ巻数の次に丸括弧で号数をあげる。

石川太郎. 1989. 日本産イネ科の系統分類. 地理分類研究 **25**: 33-42.

Ishikawa, T. and Toyama, J. 1990. Two new species of *Poa* (Gramineae) from Japan. J. Jpn. Bot. **65**: 4-12.

富山次郎. 1991. 富山県産イネ科目録. イネ科研究レター (**52**): 8-9.

b 単行本の場合: 著者名(aに同じ)、年号、表題、引用頁、発行所、発行地の順とする。なお発行地が複数の場合は一箇所のみとする。分担執筆や論文集、報告書等の場合、表題の後に編集者名、書籍表題を付け加えること。

福井三郎・新潟四郎. 1989. 日本海沿岸地域のエノコログサ属の生態. 日本海学会出版会(編). 日本海学会報告書, pp. 24-31. 日本海大学, 新潟.

石川太郎. 1981. イネ科の分類. 富山書房, 東京.

石川太郎. 1984. イネ科. 富山次郎(編), 日本植物誌 III, pp. 38-78. 石川出版, 金沢.

Ishikawa, T. 1985a. Taxonomic study of Asiatic Gramineae. Smith and Brown, New York.

Ishikawa, T. 1985b. Morphology in Gramineae. In: Willson H. B., Clemens, A. C. and Backer, I. P. (eds), Gramineae in the world, pp. 23-45. Academia, London.

c ウェブサイトの場合: 掲載者名、確認した年、表題、URLを表示する。

環境省自然環境局野生生物課. 2010. 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

なお、引用文献を他言語表記した場合、(in Japanese), (in Japanese with English summary), (in Russian), (in Chinese) 等を付記する。

その他、原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。

最終原稿の送付

審査終了後の最終原稿は、2部を、電子媒体（フロッピーディスク、CD-R など）、表・図の原図とともに郵送する。本文は原則としてワードファイル（.doc）、表・図の電子ファイルがある場合は、それぞれエクセルファイル（.xls）、JPEG 画像ファイル（.jpg）として1点ずつ別ファイルで保存する。写真の解像度は300dpi以上であること。なお、電子媒体、表、原図は原則として返却しない。返却希望の場合には、予めその旨を申し出るとともに、宛先を記入した返送用封筒を、最終原稿の送付時に必ず同封すること。

校正

原則として、初校を著者が行い、第2校以降は編集委員会の責任において行うものとする。活字は編集委員会が指定するが、特に希望する箇所があれば、鉛筆で記入すること。

校閲

英文論文については、英語を母国語とする外国人の校閲を受けておくことが望ましい。編集委員会で外国人の校閲を受けることがあり、その場合の実費は著者負担とする。

別刷

投稿者は必要とする別刷部数を最終原稿に明記すること。総説、論文、短報、ノートは、50部は無料、それ以上については実費を徴収する。投稿者（共著の場合は責任著者）には論文のPDFファイルを配布する。

原稿送付先および編集に関する連絡先

送稿や編集に関係した通信は 〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理工研究域自然システム学系 植物地理・分類研究編集委員会 編集委員長 山田敏弘 TEL & FAX: 076-264-6207 / E-mail: nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp。投稿の場合、紙原稿では封筒に「投稿原稿在中」と朱書き、電子投稿では電子メールの表題を「植物地理・分類研究投稿」とすること。